

道路と生活

大高小五年 河田 大將

「いつてきまあゝす。」一歩外に出ると、そこは道路。学校や友達の家、病院やスーパーマーケット、どこもみんな道路でつながっています。今や人々の毎日の生活は、道路にたよりに、道路によつて、支えられているのです。

昔は、車の量も今よりずっと少なく、ほそつされていなかったデコボコ道を、人や車が通行していたそうです。山おくや島に住む人は、けが人や急病人を、病院に運ぶにも大変苦労したようです。しかし、今では、トンネルをほり近道。海があられていても、橋を渡り病院へ、かけつけられます。不便な地域の人も、一本の道路ができることで、便利で安心な生活をおくることができるようになったのです。

ぼくのお父さんの仕事は、トラックドライバーです。今は、ほとんどの荷物の運搬は、トラック輸送。工場や倉庫から直接お店や商品を必要とする人の所へ届けられるので、早くて、確実なんだそうです。お父さんは、「お預かりした荷物は、お届けするまで責任がある。いくら急いでいても、落としたり、こわしたりは許されない。仕事だからな。新しい道路は荷台をゆらさず、すべるように走れて安心するよ。きよりも時間も短縮できて、仕事がかどるぞ。」と話してくれました。家族のために、がんばっているお父さんも、やっぱり道路に支えられていました。

ぼくも新しい道路を車にのせてもらって走るのが大好きです。しかれたばかりのアスファルトはまだ黒く、白と黄色の線がくつきりと美しい。道路の中央やわきには、お行儀良く

植えられた草木。きつと誰もが、どこまでも走りつづけなくなるはずです。

それがいつしか、たばこの吸いから、空きカンやペットボトルのころがる悲しい道路へ変わってしまったのです。自分達の住む地域の道路を安全に美しく保つため、ゴミ拾いや、草花を植えるボランティアの人達を見かけることがあります。

ぼく達も、交通ルールを守り通行するのはもちろん、ゴミのポイ捨てはしていいか？道路を遊び場にしていいか？道路に自転車置き場を置きたいか？など、正しく道路を利用できるよう心がけたいです。

誰もが当たり前のように利用している道路当たり前のマナーを忘れないことが、道路を守り、自分達の生活を豊かにすることにつながるのだと思います。